

普及指導員調査研究報告書

課題名：下関地域における「かおり野」の普及・定着によるイチゴ産地の拡大を目指して

下関農林事務所農業部 担当者氏名：塩田拓之、高尾吉澄、西村達也、金治直子、三井義則、岡藤由美子

<活動事例の要旨>

J A下関いちごP Jでは、既存生産者の収益改善と新たな担い手の確保を目的に、「かおり野」をポスト「とよのか」として位置付け、普及・定着を図っている。普及にあたって、栽培方式ごとの技術確認ができていないことや果実品質が不安定であること等の課題があったため、実証ほによる栽培技術確立や講習会・巡回による徹底した栽培技術指導、果実品質の確認を行った結果、H26年産では生産者は45名に増え、作付面積は全体の3割を占めるまでになった。

1 普及活動の課題・目標

(1) 課題の背景

下関市は、県内一のイチゴ産地である。しかし、生産者の高齢化が深刻となっており、栽培規模の縮小や生産者のリタイヤによる面積減少が顕著になってきている。一方、販売単価の低迷や燃油・資材等の高騰により、経営の収益性が悪化しており、産地は更に縮小の一途をたどっている。今後も、さらなる生産者の減少が予想されることから、産地を維持・拡大していくためには、既存生産者の収益改善や新たな担い手の確保が不可欠となっていた。

(2) 目標設定

新たな担い手を確保・育成するために、まずは単収向上、経営費削減等により、既存生産者の収益を向上させ、イチゴ経営を魅力あるものにする必要がある。そこで、既存生産者の収益向上を目指して、J A下関いちごP Jで、従来の主力品種であった「とよのか」よりも省エネ、多収性の品種である「かおり野」をポスト「とよのか」として位置付け、下記のような目標を設定した。

<品種別作付面積>

H23年産	「とよのか」：79%、「紅ほっぺ」：18%、「さちのか」：3%
H28年産（目標）	「かおり野」：70%、「紅ほっぺ」：30%

2 普及活動の内容

新品種「かおり野」の普及・定着にあたっては、品種の良さを生産者に理解・実感してもらう必要があり、そのためには、「かおり野」生産の安定化に向けた支援が重要であると考えた。そこで、関係機関と連携し、①現地栽培技術の早期確立、②徹底した栽培管理指導、③消費者へのPR活動に取り組んだ。

(1) 現地栽培技術の確立

「かおり野」栽培の生産・品質安定化のために、現地の気候や栽培方式に合った栽培技術を確立する必要があった。そこで、H24度から農林総合技術センターと連携して「かおり野」の栽培実証を行い、草勢や品質、収量等を確認した。また、いちごP Jで、月1回実証ほを巡回し、生育や指導事項を確認することで、指導側の知識・技

術のレベルアップを図った。H26年度は、清末地区で主に導入されている「らくちんシステム」と内日地区の無暖房・無電照条件下の土耕栽培での技術確立に向け、両地区で実証ほを設置し、調査研究を行っている。

(2) 生産者への技術普及・指導

「かおり野」は、「とよのか」と生育特性が異なることから、生産者が安定した収量・品質を確保するためには、きめ細かい栽培指導が必要であった。そこで、管理の節目となる時期に講習会を行い、「かおり野」の適切な育苗管理や草勢管理について周知した。また、月1回、JAの営農指導員とともに各地区の生産者ほ場を巡回し、適切な管理が行われているか確認・指導した。その際、生産者から出た疑問や課題は、PJメンバーや技術指導室と共有することで、指導者側が共通認識のもとに指導が行える体制を作った。

(3) 「かおり野」の評価の確認と消費者へのPR

「かおり野」の導入に際して、生産者や市場から「とよのか」との食味や外観の違いを懸念する声があり、普及のネックとなっていた。そこで、JAいちごPJで消費者へのPRを兼ねて、アンケート調査を行い、その結果を生産者や市場へフィードバックした。

(表) 消費者アンケートの結果（食味）

実施日	H25. 2. 1 7	H25. 2. 24	H25. 4. 14	H25. 12. 8	H26. 1. 27	H26. 2. 23
かおり野	1位	1位	1位	1位	1位	2位
とよのか	3位	3位	2位	3位	2位	3位
紅ほっぺ	2位	2位	3位	2位	3位	1位

3 普及活動の成果

(1) 「かおり野」生産の安定化

関係機関と連携し、きめ細かな栽培指導を行った結果、栽培技術の確立・指導により、平成25年度の品種別平均単収では、「とよのか」が2.3t/10aに対し、「かおり野」は2.9t/10aとなり、収量が向上した。

(2) 「かおり野」生産者および作付面積の増加

消費者に対するアンケート調査の結果、「かおり野」の食味に対する評価が「とよのか」よりも高いことが分かったことで、生産者・市場の「かおり野」に対する不安が払拭された・また、「かおり野」の長所である高収量・省エネ・炭そ病抵抗性等について生産者が理解・実感し始めたことで、「かおり野」の生産者および作付面積は増加した。

(表) 年度別「かおり野」栽培状況

年度	H23	H24	H25	H26
生産者（名）	0	2	36	45
作付面積（ha）	0	0.06	1.26	2.04
面積割合（％）	0	1	16	28

4 今後の普及活動に向けて

(1) 「かおり野」のさらなる普及・定着

引き続き、実証ほを設けることで各栽培方式に合った技術を確立すると共に、品質・収量のばらつきを改善するための技術の普及・定着を目指す。

また、「とよのか」の作付割合が高い清末・内日地区での品種切り替えを重点的に図っていく。

(2) 新たな担い手の確保・育成

遊休ハウスの活用、研修受入体制整備等を検討するとともに、今年度作成する下関版「かおり野」経営指標を活用することで、新たな担い手の確保・育成を行う。